



稲沢市民病院 /

病院 News.

inazawa municipal hospital news

vol. 80

2024 January

－ 出発式 －

山口院長 |

大変な思いをしている能登の方たちが、安藤さん横橋さんの心意気に勇気づけられると思います。大変な環境下でのお勤めとなると思いますが、ご自身の健康管理にも気をつけて、勤めてください。

住田看護局長 |

ご自分の命が一番大切です。健康で、危険なことは判断して回避していただき、被災地の方々を助けてください。いま、感染症が流行しています。被災者の方の話には、不安に怯えている方、眠れない方などもあります。話を聞くなど、精神的なサポートでの力も発揮できると思いますのでよろしくお願いします。

安藤看護師 |

2014年から支援ナースに登録して9年目でやっと初の出勤となります。やれることをやる精神で稲沢市民病院の名に恥じないよう行ってきます。

横橋看護師 |

勤務調整などありがとうございます。できることをやれる範囲でやっていこうと思います。自分の安全を第一に考え、行ってきます。



病院職員に見送られ、愛知県看護協会へ向かう。看護協会にて、派遣先のオリエンテーションを受け、能登半島の派遣先へ。

5泊6日の被災地の様子や看護支援活動の内容は、次回ご報告します。

災害支援ナースを、ご存知ですか？

被災地 能登に向け 看護支援 活動へ。

Vol.1



令和6年1月の能登半島地震により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。いまだ復旧の目処が立たない地域も多く、被災地の多くの方は、住む家もなくなり、厳しい寒さの中、長期化する状況に心も体も疲労していると思います。いま、わたしたちにできることは、一体？

稲沢市民病院は、愛知県看護協会からの要請を受け、2名の災害支援ナースを2024年1月28日に被災地に派遣しました。今月号は、災害派遣ナースについてお話しします。

稲沢市民病院ニュース

発行日 令和6年1月29日

発行部数 300部

発行元 稲沢市民病院広報委員会

電話 0587-32-2111

Fax 0587-32-2151

E-mail hospital@city.inazawa.aichi.jp

広報誌バックナンバー



災害支援ナースを、ご存知ですか？

災害支援ナースは、都道府県看護協会に登録している実務経験5年以上の看護師で、災害支援ナース養成のための研修を受け、所属施設長の承諾があれば登録できます。

大規模災害時に日本看護協会と都道府県看護協会が連携して、被災地近隣の医療機関の登録ナースに要請がかかります。災害支援ナースは、医療機関や社会福祉施設、避難所で感染管理や衛生管理、心身のケアを行います。



横橋看護師

「子供たちには、やることリストを作ってきました。」

普段は、病棟看護師として当院に勤務している安藤看護師と横橋看護師に出発前に話を聞きました。

Q. 災害支援ナースを目指すきっかけは？

安藤看護師

「手術室にいたころ、男性看護師の数はいまほど多くはなく、自分の持っているスキルを磨いて役立つことはないか模索していました。ちょうどそのタイミングで災害支援ナースの研修を受け、救命にも関心があったので家族と相談して直ぐに登録しました。2014年に個人登録して数年後に病院が登録、10年ほど経過する中で大きな地震などの災害はありましたが、出勤することはありませんでした。その間、救命救急の講義などを受ける中で、被災地の人の役に立ちたいという思いを抱えながら今日を迎えました。」

「怖がってもしようがない。

現地にいる人たちは、もっと怖がっていると思うから。」

－ 出発前の控室にて －

「これ、鉄板の入ってる靴。重いものが落ちて大丈夫な靴。買ってきた。」

と和んだ会話から一変。

－ (命懸けの任務) 怖くないですか？ －

一瞬、安藤さんの表情が引き締まり

「怖がってもしようがない。現地にいる人たちは、もっと怖がっていると思うから。」

安藤さんは、いままで災害支援ナースの研修を3回受け、今回、初の被災地への出勤となる。

－ 今回の出勤についてご家族の反応は？ －

妻は、心配はしてはいると思うけど、あえて表には出さないでいてくれます。

少し前に子供たちが、学校で災害支援ナースの話聞いて“パパ行くの？”と聞いてきました。

行くことが決まり、今日、出発の朝は、普段、早起きをしない子供たちが早起きをしていました。

珍しく小学生の子供2人が“パパハグして”と言ってきました。今日は、子供たちと久しぶりにハグしてきました。子供たちなりに思うことがあったのでしょうか。」

－ 被災地に派遣されることについてご家族の協力は？ －

「災害支援ナースをやること決めてから、子供たちには、常々言い聞かせていました。

災害が起きたとき、お母さんは、災害支援ナースとして被災地に行くこと。」

なので、私がいなくてもなんでもできるように、平日頃から子供たちには、自立して生活できるように洗濯や家事などをやらせていました。私が、いない間のやることリストも作ってきました(笑)。洗濯、食材の場所など。実家にも食事などのお願いはしてあります。

夫は、ドライなのでやることさえやってくれば反対はしません。

今回、病棟の師長さんはじめスタッフの方にも勤務調整など協力してもらい、家族の理解のもとで行かせていただけていると思っています。」

－ 5泊6日の主な持ち物 －

- 作業しやすいスエット上下
- 長袖のシャツ、靴下などの下着類を圧縮袋に入れる。
- 2リットルの水2本、500mlの水1本
- ごみ袋 | ごみが捨てられないためごみ袋を持参。
- 内服薬やサプリメント、鎮痛解熱剤
- 食料、チョコレートなどの甘いもの
- 消臭剤 ホッカイロ
- サランラップの小 (水が出ないためお皿の上に敷く)
- 免許証コピー (極力、貴重品は紛失する可能性があるため持参しない)

※ 詳細は、日本看護協会の災害支援ナース持参物品に掲載されています。

荷物は、極力減らして必要最小限に。



地割れなども想定してリュックを持参。



仲間からのチョコレートなどの非常食の差し入れ

